

多市議第164号
令和2年3月19日

多久市長 横尾俊彦様

多久市議会産業厚生委員会
委員長 平間智治

産業厚生委員会閉会中継続審査事件について

当委員会では、閉会中継続審査事件として、多久市立病院と小城市民病院を統合した新公立病院について審査を進めてまいりましたが、今回多久、小城市による覚書を市側から提示されたのを受け、多久市東多久町大字別府の建設予定地が適地であるかについて、平成31年3月に作成された公的病院統合検討事業に係る建設候補地評価報告書、令和元年12月議会における執行部の答弁や小城市と多久市との覚書に基づき検証を行いました。

新公立病院の建設は、市民の皆様にとって大きな関心事であり、慎重な検討が必要と考えます。

委員会としては、これまでの説明や一般質問での答弁だけでは内容が不十分であり、疑問解消には至りませんでした。建設費用に関することや、新公立病院の運営について、市として判断され覚書として締結されていると思いますので、その点を踏まえ下記の事項について、書面による回答と、その内容について当委員会での説明をお願いいたします。

なお、回答は令和2年3月末日までにいただきますよう併せてお願いいたします。

記

1. 新公立病院への交通アクセスについて

- (1) JR唐津線や昭和バス唐津-佐賀線の利便性についてどう考えているのか。
- (2) 両市が運営されている交通機関について、新公立病院への乗り入れはどう考えているのか。(多久市ふれあいバス、小城市巡回バス)
- (3) 新公立病院への車両の乗り入れに係るアクセスについてどう考えているのか。(外来患者、お見舞い、職員、病院関係事業者等)

2. 新公立病院経営の安定性と中長期の経営について

- (1) 新公立病院利用者の算定において、三日月町からの受診者が見込まれているが、地理的な条件等から、佐賀市や小城市内の病院への受診が多くなり、ほとんどが小城市小城市からの受診者しか見込めないのでは。
- (2) 将来の人口推計や利用者の見込み数を考慮した場合、30年間安定した経営ができ

るのか。

(3)両市が協議して定める安定した運営に必要と思われる預金残高を下回った場合には、多久市がこれを補填することとなるが、これについて試算は行われているのか。

3. 新公立病院の建設費用について

新公立病院の建設に要する費用は多久市の負担が9割となっているが、覚書を交わす時点で、どういう事項をもとに判断されたのか示してもらいたい。

4. 地域医療バランスについて

佐賀県全域を対象に考えた場合、県央部の医療が脆弱である中、新公立病院を2次医療機関としたうえで、現多久市立病院、小城市民病院の持つ災害拠点病院、糖尿病基幹病院としての機能を引き継いでいくのか。

5. 建設候補地の盛り土について

建設候補地の浸水被害のリスクを考慮し盛り土を予定されているが、候補地の盛り土を行うことにより、近隣周辺への水害等の影響については検討が行われたのか。

6. 周辺道路等も含めた浸水被害のリスクについて

(1)建設候補地については、国道、県道、市道で想定される浸水被害のリスクが高いのではないのか。

(2)建設候補地の南側に牛津川があり、令和元年8月の豪雨時には氾濫の危険もあったが、候補地として適切なのか。

7. 周辺環境の整備について

新公立病院の建設にあたり、新公立病院を核とした生活基盤の整備はどのように考えているのか。